

# 防災じゅうたん、火災を未然に防ぐ

ホテルゴーフルリッツ

## 1 地震発生時の対応

ホテルには前日から15名が宿泊（その前日は約200名宿泊）していた。そして、ナイトマネージャーをはじめ6名の勤務者の他、ホテル等の警備員6名が常駐していた。

7階の客室で仮眠していたナイトマネージャーは、地震の「ドン」という音で目が覚め、2～3回の激しい縦揺れのあと横揺れを感じた。その間の時間は長く感じられ、行動が不可能であった。揺れがおさまって直ちに制服に着替えてから部屋を出て、1階のフロントに向かった。屋内避難階段を利用して本館1階フロント裏の防災センターに向かった。

ロビーには宿泊客と従業員2名がすでに避難していた。他の従業員は各階の宿泊客に対して現在の状況を説明していた。一方、防災センターではスプリンクラー設備が17階で圧力異常の警報が表示されたので現場に向かった。現場ではスプリンクラーヘッドが破損し水が出ていたので、制御弁を閉鎖するとともに、引き続いて館内の火災危険の有無の確認を行った。

当初は電話が不通で会社役員への連絡が出来なかったが、午前9頃には通話が可能となった。

## 2 避難誘導の状況

避難誘導開始後、地震によりドアの開放ができない客室があり、避難できない状態との連絡が入ったので、警備員は現場に向かいドア越しにベランダを通じて避難するように指示した。他の宿泊客は自発的に避難していたので1階のロビーで点呼を行い、全員の人員を確認したのは地震の発生から15分後くらい経過した頃であった。幸いにも負傷者は発生しなかった。

自家発電設備が起動し照明が点灯していたので館内は明るかった。最終的に宿泊客は当日はホテルのロビーで一夜を明かし、翌日には徒歩又は海上アクセスの高速艇を利用して島外に脱出した。

## 3 教訓

- (1) 点灯したままの電気スタンドが転倒したが、敷物が防災物品であったため、復電時の火災の発生防止に役立った。
- (2) NTTが不通の場合、国際電話がスムーズに通じる。

客室の点灯したままの電気スタンドが転倒したが、防災じゅうたんにより復電時の火災を未然に防ぐ。

